

## 2. 沿岸水域調査

### I 調査目的

沿岸域における、サケ、マス幼稚魚の生態を明らかにし、サケ、マス増殖管理体制の確立に資する。

### II 調査内容

1. 調査期間 昭和50年4月～51年3月
2. 調査場所 太平洋側・・・下北郡東通村白糠地先  
日本海側・・・西郡深浦町岩崎地先
3. 調査員 次長 頼 茂  
技師 小田切 譲 二
4. 調査項目 (1) 沿岸回游状態  
(2) 成長, 食性  
(3) 環境条件
5. 調査方法  
調査場所において採集したサンプルの魚体調査及び白糠、鯔ヶ沢地先における環境（水温、塩分、プランクトン）について観測査定を行なった。

### III 調査結果

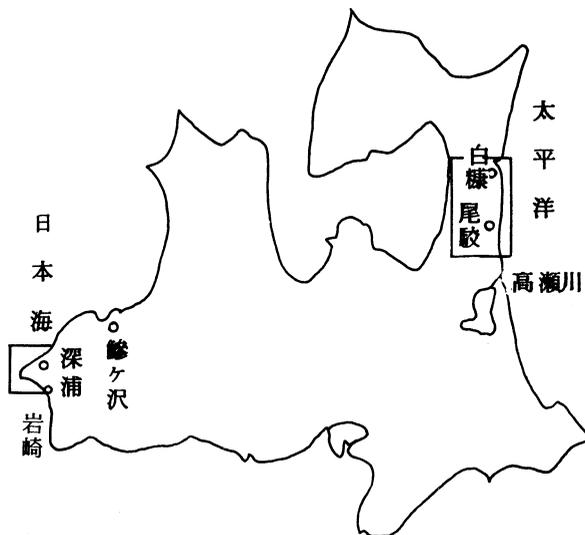
1. 太平洋側9尾、日本海側64尾のサケ稚魚及び日本海側で4尾のサクラマス稚魚の魚体測定を行なった。（図I、表I）
2. 稚魚が沿岸を離脱する水準水温（15℃）からみると本年の場合、太平洋側では6月23日、日本海側では5月末日と1ヶ月のズレがみられる。  
日本海側の岩崎地先におけるサケ稚魚の来游ピークは5月15日から20日にかけてである。
3. 日本海側沿岸域に回游する稚魚の大きさは5月上旬7.8～12.8cm（体重4.5～19.5g）同中旬8.1～11.6cm（同5.6～14g）同下旬9.9～12.2cm（同9.1～14.9g）であって最小6cm（1.4g）から最高14.4cm（28.2g）のものまで出現する。
4. サケ稚魚は甲殻類と他の魚の稚魚類を主体に摂餌しているが、そこに存在する餌を手当たり次第に摂るといったように別に厳密な選択性はないようである。（表II、III）

### IV 調査の成果と今後の問題点

1. 調査の成果
  - (1) 過去5ケ年間に亘る調査で日本海沿岸域に出現回游するサケ稚魚の生態について多くの知見を得た。
  - (2) 沿岸からサケ稚魚が離脱する水準水温は15℃附近にある。
2. 今後の問題点
  - (1) 川を出た直後の極く沿岸域における滞泳時期の生活生態に関する調査

- (2) 北上回游途次における成長の過程と経路を把握するため各県共同調査による標識放流の実施
- (3) 富山系サケ稚魚の追跡調査と日本海で越夏すると思われるサケに関する調査の実施 (1976: 沿岸水域調査報告書, 青森県水産試験場)

第1図 調査地点



第1表 サケ稚魚測定表

採捕年月日	標本数	体長範囲 (cm)	平均体長 (cm)	体重範囲 (g)	平均体重 (g)	備考
5 0.5. 1 2	5尾	6.3 ~ 7.8	6.9	2.1 ~ 4.0	2.7	太平洋
6. 5	4	9.4 ~ 9.6	9.5 2	8.3 ~ 9.2	8.7	
5 0.5, 7	7	1 1.3 ~ 1 3.6	1 2.8	1 2.8 ~ 2 4.6	1 9.5	日本海
5. 8	2 5	1 0.0 ~ 1 2.0	1 1.1	8.8 ~ 1 5.9	1 2.8	
5. 9	1 7	1 0.6 ~ 1 1.7	1 1.3	1 1.0 ~ 1 4.3	1 2.7	
5.1 1	8	1 0.8 ~ 1 2.2	1 1.6	1 1.6 ~ 1 6.2	1 4.0	
5.1 2	7	1 0.4 ~ 1 1.6	1 1.1	1 0.1 ~ 1 4.1	1 2.1	

第2表 胃内容物種類とその摂餌割合

	魚 類	端脚類	橈脚類	空 胃	標本尾数
O. K	66.6%	4.3%	15.9%	14.5%	69尾
O. M	50.0%	-	-	50.0%	4尾

第3表 胃内容重量組成

採 捕 年月日	魚種	標本 尾数	胃 重 量 組 成 ( % )				胃内容物 重量範囲	胃内容物の種 類と捕食魚体 数	備 考
			0 ~ 0.4	0.5 ~ 0.9	1.0 ~ 1.5	1.5 g 以上			
50.5.12	O. K	尾 5	100%	-	-	-	0.1g以下	ヨコエビ類③ 空胃②	} 太平洋
5.7	O. K	7	57	43	-	-	0.1~0.4	コペポータ⑦ 稚魚②	} 日本海
5.7	O. M	3	-	33	67	-	0~0.6	イカナゴ1尾①	
5.8	O. K	25	40	56	4	-	0~1.0	コペ④空胃⑧ 稚魚⑬	
5.9	O. K	17	23.5	76.5	-	-	0.2~0.5	稚魚⑰	
5.11	O. K	8	-	100	-	-	0.2~0.4	稚魚⑧	
5.12	O. K	7	100	-	-	-	0.2~0.3	稚魚⑦	
5.12	O. K	1	-	-	-	100	2.2	イカナゴ3尾①	

(注0. Kサケ, O. Mサクラマス)

○内の数字は摂餌しているサケ稚魚尾数